

平成 29 年度
埋蔵文化財調査士補
資格試験
筆記問題答案用紙
(I 択一式)

受験番号	氏 名			
B-				

試験日：平成 29 年 8 月 26 日 (土)
会場：東京御茶ノ水「連合会館」

公 益 社 団 法 人



日本文化財保護協会

次の設問に対し、A～Dのうち一つだけ記号を選択して解答欄に記入しなさい。

問 1 埋蔵文化財調査士・調査士補の資格制度で、正しいものはどれか。

- A. 調査士は発掘調査から報告書作成まで一貫して責任をもって実施できる。
- B. 調査士補は経験の少ない作業員の指導のみできる。
- C. 調査士補は CPD ポイント不足による未更新者であっても、実務経歴と必要条件を満たせば特例として調査士試験受験資格を与えられる。
- D. 調査士と調査士補は発掘経験年数の違いである。

問 1	A
-----	---

問 2 技術系の団体や組織の多くは、倫理の重要性を認識し倫理規程・行動規範等に準拠した行動をとることを求めている。技術者の行動に関する次の A～D の記述について、組織の倫理規程・行動規範等に含まれないものはどれか。

- A. 職務遂行においては企業の営利を最優先に考慮する。
- B. 専門職としての品位及び信頼を維持向上させることに努める。
- C. 社会・公衆に対する説明責任を果たす。
- D. 他者の知的成果、知的財産を尊重する。

問 2	A
-----	---

問 3 災害事故発生時に問われる責任に関する次の記述で誤っているものはどれか。

- A. 災害事故発生時、四つの責任（刑事・行政・民事・社会的）が問われる。
- B. 発掘現場で災害を起こした場合、警察も刑法に基づいて捜査に入ってくる。
- C. 労働災害で責任を問われるのは事業者だけであり、現場責任者が罰せられることはない。
- D. 労働災害では被災労働者から労災保険に基づく法定補償の他に損害賠償を問われることもある。

問 3	C
-----	---

問 4 労働安全衛生法等に関する次の記述のうち正しいものはどれか。

- A. 発掘調査現場の安全衛生を確保するのは作業員だけの責任である。
- B. 法令における技術的基準は過去の災害事例を基に定められていることはない。
- C. 労働安全衛生法には労働者の守る義務は定められていない。
- D. 災害発生時、事業者が関係法令を知らなかったとしても責任は免れない。

問 4	D
-----	---

問 5 危険性又は有害性の調査等（リスクアセスメント等）について誤っているものはどれか。

- A. 作業前の段階でリスクを抽出し、重大性、発生可能性の評価結果から重大なリスクに対して適切な対策を実施していく手法である。
- B. リスクアセスメント等は労働安全衛生法施行当初（昭和 47（1972）年）から行っている我が国独自の安全管理手法である。
- C. リスク低減措置の優先順位は 4 段階あり、計画段階で措置できるのがよい。
- D. リスクアセスメント等の結果、残留リスクは発生するものである。

問 5	B
-----	---

問 6 労働安全衛生法、労働安全衛生規則に関する記述のうち誤っているのはどれか。

- A. 新規に労働者を雇い入れた時は雇入れ時教育を実施しなければならない。
- B. 労働者の作業内容を変更した時は原則として教育を実施しなければならない。
- C. 事業場で業務災害（休業）が発生した場合には労働者死傷病報告を所轄労働基準監督署長宛に出さなければならない。
- D. 労災隠しに問われるのは労働者死傷病報告を出さない場合に限られる。

問 6	D
-----	---

問 7 発掘現場における安全措置として正しいものの組合せはどれか。

- イ. 地山の掘削作業前に埋設物の損傷等により労働者に危険を及ぼす恐れがあったので掘削箇所の調査を行った。
 - ロ. 今の発掘現場は堅い粘土からなる高さ 5m 以上の地山の手掘り作業なので、掘削面のこう配を 80 度以下にしている。
 - ハ. 掘削面の高さが 2m 以上となる地山の掘削作業では有資格者の中から作業主任者の任命が必要である。
- ニ. 作業主任者の職務には作業者を直接指揮する職務は含まれていない。
- A. イ及びロ
 - B. ロ及びニ
 - C. ハ及びニ
 - D. イ及びハ

問 7	D
-----	---

問 8 文化財保護法が制定されたのはいつか。

- A. 大正 8 (1919)年
- B. 昭和 4 (1929)年
- C. 昭和 25 (1950)年
- D. 昭和 43 (1968)年

問 8	C
-----	---

問 9 三者協定書を締結するのは事業者と調査機関ともう一者はどれか。

- A. 文化庁
- B. 県教育委員会
- C. 市町村教育委員会
- D. 地域の埋蔵文化財センター等

問 9	C
-----	---

問 10 文化財保護法で行政以外の者が発掘調査を行う場合の条文はどれか。

- A. 文化財保護法第 92 条
- B. 文化財保護法第 93 条
- C. 文化財保護法第 94 条
- D. 文化財保護法第 99 条

問 10	A
------	---

問 11 文化財保護法第 92 条の発掘届の添付書類で必要でないものはどれか。

- A. 調査隣接地の土地所有者の同意書
- B. 土地所有者の発掘承諾書
- C. 調査担当者が発掘調査の主体者ではない場合、発掘担当者の発掘担当承諾書
- D. 発掘予定地につき権原に基づく占有者があるときは、その承諾書

問 11	A
------	---

問 12 調査担当者として発掘調査を運営して行くために、不適切なものはどれか。

- A. すべて発掘調査を最優先に行う。
- B. 行政担当者への報告、打合せを十分に行う。
- C. 調査員間や作業員との日々のコミュニケーションを取る。
- D. 地域周辺への気配りを怠らず、調査を進める。

問 12	A
------	---

問 13 明治 25 (1892)年、東京帝国大学理学部において日本初の人類学講座を担当したのは誰か。

- A. 鳥居龍蔵
- B. 坪井正五郎
- C. 松本彦七郎
- D. 八木奘三郎

問 13	B
------	---

問 14 大正 5 (1916)年、京都帝国大学で浜田耕作が開講した講座はどれか。

- A. 民族学講座
- B. 歴史学講座
- C. 考古学講座
- D. 先史学講座

問 14	C
------	---

問 15 大正 6 (1917)年、浜田耕作により層位学的に発掘された遺跡はどれか。

- A. 福岡県板付遺跡
- B. 奈良県唐古遺跡
- C. 京都府北白川遺跡
- D. 大阪府国府遺跡

問 15	D
------	---

問 16 「日本遠古之文化」の著者は誰か。

- A. 鳥居龍蔵
- B. 山内清男
- C. 浜田耕作
- D. 中谷治宇二郎

問 16	B
------	---

問 17 縄文土器の起源について山内清男と芹沢長介の論争を生んだ遺跡はどこか。

- A. 神奈川県夏島貝塚
B. 新潟県本ノ木遺跡
C. 長野県神子柴遺跡
D. 新潟県小瀬ヶ沢洞窟

問 17	B
------	---

問 18 細石刃文化の遺跡として最初に発掘された遺跡はどこか。

- A. 長野県茶臼山遺跡
B. 長野県上ノ平遺跡
C. 東京都茂呂遺跡
D. 長野県矢出川遺跡

問 18	D
------	---

問 19 ローム層中で平面的かつ層位的調査を複合的に行った最初の調査はどこか。

- A. 群馬県武井遺跡
B. 群馬県岩宿遺跡
C. 大阪府国府遺跡
D. 東京都野川遺跡

問 19	D
------	---

問 20 昭和 23 (1948) 年、江上波夫による騎馬民族征服王朝説 (東北アジア騎馬民族系王朝の日本征服・統一国家樹立説) が発表されて戦後の学会を驚かせたが、その根拠は 4 世紀と 5 世紀で決定的に異なることを見つけた考古学上の成果だ。それは次のうちどれか。

- A. 前方後方墳の出現
B. 金銅製馬具・装身具の副葬
C. 須恵器の副葬
D. 前方後円墳に横穴式石室の採用

問 20	B
------	---

問 21 前方後円墳に対して、前方後方墳は数の上からも大きさからもやや劣るが、墳長 100m を超えるものも多くある。日本最大の前方後方墳は次のうちどれか。

- A. 群馬県八幡山古墳
B. 栃木県上侍塚古墳
C. 奈良県西山古墳
D. 島根県山城二子塚古墳

問 21	C
------	---

問 22 次の文章のカッコ内に入る言葉を選べ。

日本のポンペイと称された群馬県黒井峯遺跡の調査からは様々な発見があった。例えば、柴垣に囲われた屋敷地、家畜小屋や畝たてした畑地、平地建物、住居間をつなぐ道など、従来までは知られなかった遺構が明らかになった。これらは火山噴火による厚い () に被覆されていたためである。もしこの幸運がなければ、後世の土地利用によってすっかり削られて消滅していたに違いない。

- A. 火砕流
B. 泥流
C. 軽石
D. 溶岩

問 22	C
------	---

問 28 肥前磁器について正しいものはどれか。

- A. 肥前磁器は、朝鮮の磁器生産の技術の影響下に誕生した。
- B. 肥前磁器は、国産中世陶器の伝統の下に世界に先駆けて生産された。
- C. 国産磁器は、中世の一大窯業生産地である瀬戸美濃地方で創始された。
- D. 国産磁器は、創始直後からオランダ東インド会社を通してヨーロッパへ輸出された。

問 28	A
------	---

問 29 次のうち正しいものはどれか。

- A. 草戸千軒町遺跡のような低湿地遺跡は、地下水によって木製品が腐蝕消失してしまうため、生活復原には不利である。
- B. 中世には漆器は陶磁器の代用品として用いられるに過ぎなかった。
- C. 中世の生活は通常の出土遺物でみられる以上に木製品の利用率が高かった。
- D. 中世の生活用具は、汎用性の高い陶磁器のみで復元できる。

問 29	C
------	---

問 30 福井県一乗谷朝倉氏遺跡について誤っているものはどれか。

- A. 一乗谷朝倉氏遺跡からは、青磁や青花などの輸入磁器類も出土している。
- B. 一乗谷朝倉氏遺跡からは国産陶磁器類のみが出土し、海外との物資の往来はなかったことがわかる。
- C. 一乗谷朝倉氏遺跡からは、武器類が出土し、戦乱の世の側面をみることもできる。
- D. 一乗谷朝倉氏遺跡の出土品から、喫茶や聞香など、平時の文化的な生活を垣間見ることができる。

問 30	B
------	---

問 31 次のうち正しいものはどれか。

- A. 東京都心部で大名屋敷の遺構が多く遺存しているのは、明治期に官有地として接収されたからである。
- B. 豊臣期の大坂城は、徳川期に徹底的に破壊されたため、遺構は残っていない。
- C. 江戸・大坂の近世都市遺跡は発掘調査の対象とされていない。
- D. 東京・大阪などの大都市は、近代以降の開発によって攪乱されたため、近世以前の遺構は残っていない。

問 31	A
------	---

問 32 近世城郭について誤っているものはどれか。

- A. 近世城郭は、藩政期の象徴として今日まで良好に保存されてきた例がある反面、文化施設や学校などに利用され、現状を大きく変えてしまった例も多い。
- B. 近年、観光資源として近世城郭が見直され、史跡として整備されるケースが増えている。
- C. 近世城郭の整備にあたって、石垣の積み替えなどに写真測量などの技術が適用されるようになった。
- D. 近世城郭の整備は、残された絵図面によって行われるため、発掘調査を必要としない。

問 32	D
------	---

問 33 中・近世の墓地の発掘調査について誤っているものはどれか。

- A. 墓地の発掘調査に当たっては、埋葬の様式などに反映される宗教的な特性を理解する必要がある。
- B. 墓の規模や埋葬施設の構造的な違いなどから社会の階層性が明らかになった。
- C. 中世以降のヒトの形質には大きな変化はみられないため、埋葬遺体から自然人類学的な成果は期待できない。
- D. 墓地の発掘調査は多様な課題に対処するため、考古学のほか、自然人類学、文献史学などの共同作業が大切である。

問 33	C
------	---

問 34 デジタル画像の豊かな階調を重視する上で最も関係が薄い事項はどれか。

- A. カメラのセンサーサイズを大きくする。
- B. 解像度（画素数）を高くする。
- C. 画像 bit 数（色深度）を増やす。
- D. 広いカラースペース（色空間）を用いる。

問 34	B
------	---

問 35 JPEG 2000 について正しくない記述はどれか。

- A. 従来の JPEG と互換性がある JPEG の最新バージョン。
- B. ブロックノイズが生じにくい。
- C. 可逆圧縮も非可逆圧縮も可能。
- D. 処理がやや重い。

問 35	A
------	---

問 36 レンズの絞りを絞ると問題になりやすい項目はどれか。

- A. 歪曲収差
- B. 焦点距離
- C. 回折現象
- D. 色収差

問 36	C
------	---

問 37 分布調査が必要と考えられる理由のうち正しくないのはどれか。

- A. 正しい遺跡の位置を確認するため
- B. 土地売買にあたり、遺跡地の有無により土地価格を決定するため
- C. 歴史教育の一環として利用するため
- D. 開発側事業予定地に対する問い合わせに迅速に回答するため

問 37	B
------	---

問 38 遺跡として認定できない事例は次のうちどれか。

- A. 分布調査を実施したところ、縄文前期の土器片が多数採取できた。
- B. 10 年前にトレンチ調査を実施しており、竪穴住居跡を確認している。
- C. 遺物は採取されたが、数年前に宅地造成のため運び入れた土砂であることが判明した。
- D. 切通の崖面に黒色土の落ち込みが観察でき、土器片の存在も確認できた。

問 38	C
------	---

問 39 分布調査について文化庁が平成 10 年に出した次長通知の中で正しいのはどれか。

- A. 文化財保護は文化庁が所管する仕事であり、分布調査も文化庁と都道府県教育委員会が行うものとした。
- B. 遺跡の範囲の把握についても同様に文化庁と都道府県教育委員会が行うとした。
- C. 文化庁では遺跡として扱う範囲をおおむね中世までとし、近世・近代・現代の遺跡については一切調査をする必要はないとした。
- D. 分布調査は市町村教育委員会が行い、都道府県教育委員会が関係市町村との間でその所在・範囲についての調整を行い、周知の埋蔵文化財包蔵地として決定することとした。

問 39	D
------	---

問 40 全庁型の地図情報システムの中に遺跡地図情報システムを組み込むメリットのうち正しいのはどれか。

- A. 都市計画情報や遺跡地図情報は常に変化するので全庁型のシステムは必要ない。
- B. 防災情報やハザードマップは災害を目的としているため文化財地図情報システムとのリンクは必要としない。
- C. 上・下水道情報と文化財情報の付き合せで、事前に工事計画が把握できる。
- D. 開発側から定期的にお問い合わせがあるので全庁型にする必要はない。

問 40	C
------	---

問 41 土壌を水洗して得られた遺物の管理方法で間違っているのはどれか。

- A. 炭化材は乾燥させて保存する。
- B. 生材は乾燥させて保存する。
- C. 炭化種実を乾燥させて保存する。
- D. 貝は乾燥させて保存する。

問 41	B
------	---

問 42 黒曜石が非破壊でも成分分析ができる主な理由はどれか。

- A. 研磨しなくても表面に光沢があるから
- B. マグマの成分が均質だから
- C. 黒曜石自体が大きな単結晶だから
- D. ガラス質のため、成分が比較的均質だから

問 42	D
------	---

問 43 以下の試料で放射性炭素年代測定が可能な試料はどれか。

- A. ジャワ原人の人骨
- B. たたら製鉄の際の鉄滓
- C. 高温で火葬された骨
- D. 古代の銀貨

問 43	B
------	---

問 44 14C が現代(1950 年)と比較して 25%に減少している場合、その試料はおよそ何年前か

- A. 5700 年前
- B. 11500 年前
- C. 23000 年前
- D. 45000 年前

問 44	B
------	---

問 45 暦年較正法について間違っているのはどれか。

- A. 較正プログラムには Oxcal や Calib がある。
- B. 較正曲線は数年おきに更新されるため、将来値が変わる可能性がある。
- C. 海洋と陸域では異なる較正曲線を選択する。
- D. 北半球の陸域と、南半球の陸域では同じ較正曲線を選択する。

問 45	D
------	---

問 46 発掘現場での中型遺物 (80×50×25cm 前後と仮定) の固定→取り上げについての説明として間違っているものはどれか。

- A. 石膏は発泡硬質ウレタン樹脂に比べ入手しやすく、使い慣れた材料であるが、取り上げに使用する場合は重量と強度の点で無理のないよう事前に作業計画を立てておく必要がある。
- B. 発泡硬質ウレタン樹脂は充分発泡すると極めて低密度になるので、遺物取り上げ時や運搬時の重量を考慮する必要がなくなる利点がある。
- C. 固定する前の準備として、遺物表面を紙・ラップ・砂等で養生しておくことが重要である。
- D. 固定して取り上げた遺物は屋内作業のできる環境に移し、長期間放置することなく保存処理工程に進むことが望ましい。

問 46	B
------	---

問 47 出土鉄製品の仮保管の注意点として間違っているものはどれか。

- A. 鉄製品のサビの原因は水なので、結露のない場所に保管しておけば良い。
- B. 刀剣に木鞘等の残片が付着している場合は、無理に分離せず樹脂塗布などで養生しておくのが良い。
- C. 鉄製品は鍛造品と鋳造品に大別され、仮保管中の遺存状況・注意点にも違いがある。
- D. 出土鉄製品にはほぼ完全に錆びたものと内部に金属鉄が残っているものがあるので、磁石や金属チェッカー等で調べておくと良い。

問 47	A
------	---

問 48 出土した骨角製品や人骨、獣骨角歯等の仮保管の注意点として間違っているものはどれか。

- A. 刀剣に装着された鹿角製柄頭は極端な乾燥を避けるべきなので、なるべく刀身から分離して仮保管する方が
良い。
- B. 骨や角にはカビが発生しやすいので、仮保管中のカビ防止のためエタノールなどの消毒液中に浸しておく必
要がある。
- C. 馬歯は壊れやすいので、蓋付容器に収めて動かないようにしておく必要がある。
- D. 獣骨や人骨表面には加工痕や付着物などがある可能性があるため、丁寧な観察と養生が必要である。

問 48	B
------	---

問 49 出土金属製品の X 線透過写真撮影の説明として間違っているものはどれか。

- A. 出土金属製品の保存処理に先立って形状、内部構造、劣化状態等の把握のために X 線透過写真撮影を実施す
ることが望ましい。
- B. 出土鉄製品を X 線透過写真撮影した場合、厚さが同じと仮定すると金属鉄が健全で緻密な部分は X 線の吸収
が少ないのでフィルム上では他の部分より白く写る。
- C. サビと土が硬く固まった鉄製品を X 線透過写真撮影した場合、遺物と土の境界のように見える線が製品本来
の輪郭線と一致しないことがある。
- D. 鉄地銀貼装の馬具を X 線透過写真撮影すると、銀の部分は鉄地よりフィルム上では白く写る。

問 49	B
------	---

問 50 出土銅合金製品の説明として間違っているものはどれか。

- A. 出土鉄製品と異なり出土銅合金製品は塩化物イオンの影響を受けることはないため、安定化のための特別な
処理工程は必要ない。
- B. 出土銅合金製品には鋳造によって作られているものだけでなく、鍛造品、鋳造後に鍛造や研磨したものなど
製作技法は多様である。
- C. 「銅鏡」は銅に錫、鉛その他を混ぜた合金製であることが多いが、その合金組成は地域・時代他の要因によ
ってさまざまである。
- D. 鋳造によって作られた銅合金製品を X 線透過写真撮影すると、フィルム上に「鬆（ス）」が白い斑点として
見られることがある。

問 50	A
------	---